



一口100万円プロジェクト 2026年春募集

ラオスにおける「小学校の教室建設プロジェクト」

教室は木や竹で作られた簡易な造りで、風雨も凌げないうえに老朽化し、安全に学べる環境ではありません。備品や図書も不足し、また、教師の指導法やカリキュラム、教材は伝統的な価値観にとらわれて、地域に根強く残るジェンダー不平等を助長しています。

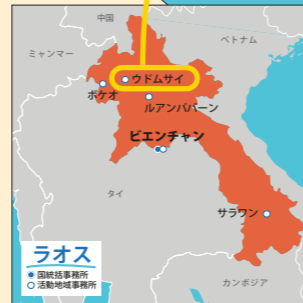
●活動期間 2026年9月～2027年8月（予定）

●実施地域 ウドムサイ活動地域

- おもな活動内容
 - ・教室の建設と机や椅子、黒板などの教室備品の支給
 - ・校長、教員、および村教育開発委員会を対象に、学校設備の維持管理トレーニング
 - ・教師、学校管理委員会および生徒を対象としたジェンダー平等と包摂に関する理解を深めるトレーニング
 - ・ジェンダー平等の知識を強化し、ジェンダー平等を促進するための教材を支援
 - ・ジェンダー平等に関する啓発イベントの実施

- 対象者
 - ・教室建設対象校の児童79人（うち女の子46人）と近隣の小学校に通う子ども199人（うち女の子94人）
 - ・対象校の校長と教師15人（うち女性4人）
 - ・対象コミュニティの代表21人（うち女性4人）

●予算 2,500万円



木と竹で作られた教室



土の上に置かれた机と椅子



剥がれて老朽化した黒板



ジェンダー平等について学ぶ子どもたち（別プロジェクト）

現地からのメッセージ

シーヌアンさん
(37歳、2年生担当の教師)

この学校で教鞭を執り13年になりますが、校舎は生徒が学ぶのに適していません。2年前には、教室のコンクリートブロックの壁の一つが崩落しました。幸いけが人は出ませんでした。教室が安全とは言えません。子どもたちの安全が心配です。

プーナーさん
(10歳、5年生)

私たちは学校が好きですが、窓やドア、壁が壊れていて、雨の日は雨が教室の中まで入り、また、冬はとても寒いんです。黒板の文字も見づらくて勉強するのが難しいです。本を読むのも大好きですが、本がとても少ないです。もっと本があると嬉しいです。

プロジェクトに関するお問い合わせは、下記へお気軽にご連絡ください。
5月30日に説明会を開催します。詳しくは右のQRコードからご確認ください。



プロジェクトの詳細はこちらへ

公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン

〒154-8545 東京都世田谷区三軒茶屋 2-11-2
サンタワーズセンタービル 10F

「一口100万円プロジェクト」担当

Mobile: 080-7739-3430 TEL: 03-5481-6100 E-mail: hello@plan-international.jp

※ウェブサイトの「一口100万円プロジェクト〈ラオス〉」紹介記事のフォームからお問い合わせ、お申し込みいただけます

学びで未来を変える。



一口100万円
プロジェクト
ラオスにおける
「小学校の教室建設
プロジェクト」
2026年春募集

ご支援いただくと

- お名前の入った記念プレートを設置します
 - プロジェクトの進捗報告書をお届けします
 - 活動地域をご訪問いただけます*
 - 節税にもなる税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けられます
- *現地事情により訪問できない場合があります

期間: 2026.4/1(水) ~ 2026.6/30(火)

女の子の未来プランを変えよう。



ご支援ありがとうございました！

過去に実施した一口100万円プロジェクトのご報告



グアテマラにおける教育支援（2023年秋募集） 「小学校の教育環境を整えるプロジェクト」

北中部アルタ・ベラパス県は、貧困率が国内で最も高い先住民族が多く暮らす地域です。小学校は教室や備品・トイレが不足し、教師の育成も不十分のため教育の質も低く、中等教育への進学者は40%に届きません。男性優位の考えが根強く、性と生殖に関する健康と権利やジェンダー平等の知識不足もあり女の子の早すぎる妊娠や出産も課題でした。



コミュニティの人々が地元の資材で建てた教室



以前の教室

プロジェクトでは、教室と男女別トイレを建設し校庭も整備。保護者には教育を受ける権利とジェンダー平等の研修を提供し、児童、教師とともに性と生殖に関する健康と権利の知識向上も図りました。教師へは教授法のトレーニングも実施しました。
子どもたちが安全で質の高い教育を受けられるよう環境を整備しました。



illustration by Noriyuki Goto

成果1

安全な施設を建設し教材や学用品を支給

児童**120**人(うち女の子59人)と教師**8**人(うち女性2人)が、安心して学び遊べる教室が整い、地域に赴任する教師の職場環境も改善されました



新しい教室



男女別および教師用トイレを新設



支援で提供された通学バッグをもつ児童

アンヘルさん
(小学校校長)

「数年前の嵐による洪水で学校は深刻な被害を受けました。地域の人々が簡易な教室を作り授業を再開しましたが、雨期には雨水が入り、夏にはひどい暑さのため、落ち着いて学べる環境ではありませんでした。子どもたちに適切な学習と教育の場を提供くださり、心より感謝を申し上げます」



成果2

多目的スペースの設置と校庭の整備



多目的スペース。コミュニティの集会にも活用



設置された遊具で遊ぶ子どもたち

レスリーさん(6年生)

「以前の学校は教室のブリキの壁に宿題を貼っても、雨や湿気でいつも泥の中に落ちていました。黒板は先生が字を書くと剥がれ、何を書いているのか全くわからないこともありました。今は、すべてが違いとても素敵な学校です。みんなが特に喜んでいるのは、休み時間に遊具で遊べるようになったことです」



成果3

教育の重要性やジェンダー平等、包括的性教育についての学びと研修を提供

教師8人(うち女性2人)が能力強化研修を受講。また、児童120人(うち女の子59人)、保護者138人(うち女性98人)が研修に参加



感情表現について学ぶ児童たち

アナさん(児童の母親)

「保護者対象研修に参加し、包括的な性教育について学びました。私が子どものときは、こうした話題を親から聞くことはなく、体の仕組みや成長にともなう変化について教えてくれる人は誰もいませんでした。この研修で、子どもたちが困難な状況に直面せず安心して暮らせるように、これらのテーマをどのように伝えたいかが分かり、さっそく娘にも話しました」



教授法能力強化研修を受ける教師たち

ご支援者の声

亡くなった父が「本当は学校に行きたかったけど行けなかった」と生前ずっと言っていました。その気持ちを、相続した財産を活用することで少しは埋め合わせられるのではないかと思います。学校に設置された記念プレートに父の名も残り、満足です。(H・Mさん 香川県)

立派な学校ができ、コミュニティの活動に参加する子どもや大人たちが増えたことに支援の成果を感じました。包括的性教育に関するトレーニングでは、子どもたちが自分の感情を認識したり他者への接し方についても学べたりしたことは期待を上回るものでした。(Y・Tさん 東京都)



校庭に設置された記念プレート

プラン・スポンサーシップの活動で築いた地域との信頼関係を基盤に、短期間に高額な資金で実施するプロジェクトは、地域支援の成果を一層加速させます。

